

平成 29 年度後期（第 7 回）12 月実施
キャリアコンサルティング技能検定

1 級 実技（論述）試験

実施日 ◆平成 29 年 12 月 17 日（日）

試験時間 ◆14：30～16：30（120 分）

★注意事項★

1. 本試験の出題は、必須問題（共通事例）と選択問題（分野別事例から選択）です。事例を読み、必須・選択問題それぞれ指定された解答用紙の設問ごとに記述してください。選択問題は、解答用紙の選択した分野に必ず○を記入してください。記入漏れがあった場合は採点されません。
2. 解答用紙に氏名を記入し、受検者シールのバーコードシール 1 枚を指定の位置に必ず貼付してください。記入漏れおよび貼り忘れがあった場合は採点されません。
3. 試験中は、受検票、腕時計、筆記具（鉛筆・ペン・消しゴム）以外のもの（定規・メモ用紙・筆記用具入れ等）は机の上に置かず、カバンの中などにしまってください。
4. 受検票は、机の上の通路側に見えるように置いてください。
5. 試験中は、携帯電話、スマートフォンなど全ての通信機器及び電子機器は一切使用できません。必ず電源を切って、カバンの中などにしまってください。時計のアラーム等、音の出る機能も使用できません。
6. 試験中は、乱丁・落丁・印刷不鮮明に関する質問以外はお受けできません。
7. 不正行為があったときは、すべての解答が無効となります。
8. 試験終了の合図が告げられたら、直ちに筆記具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
9. その他、試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は、失格となります。

【退席時の注意事項】

1. 試験開始後 30 分経過した時点で途中退出できます。途中退出する場合には、挙手し、試験監督者の指示に従ってください。問題用紙はお持ち帰りください。
2. 試験終了時刻 5 分前からは退出できません。試験終了後、試験監督者が解答用紙を回収しますので、着席したままお待ちください。

○実技試験の合格は、論述試験および面接試験の両方とも合格基準に達することが必要です。

○平成 30 年 3 月 23 日（予定）に受検者全員に合否通知書を送付いたします。

合格者は当協議会のホームページに受検番号を掲載してお知らせします。

(<https://www.career-kentei.org/goukaku/>)

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0011 東京都港区芝公園 1 丁目 6 番 8 号 泉芝公園ビル 5 階 TEL03-5402-4688

☆☆ 解答にあたっての注意事項 ☆☆

1級実技(論述)試験の問題は、**必須問題**と**選択問題**です。

選択問題は、企業分野、需給調整機関分野、教育機関分野の3分野の事例から1つ選び、選択問題の解答用紙に**選択した分野を○で囲んでください(○がついていない場合、採点されません)。**

必須問題、選択問題それぞれ指定された解答用紙の設問ごとに解答を記述してください。

なお、事例は、事例相談者(キャリアコンサルタント)が相談者に対してキャリアコンサルティングを行った結果をもとに、事例相談者が事例指導を受けるためにまとめたものです。

事例1【必須問題】

事例相談者：女性(40歳)

相談者：A(男性：29歳)

事例2【選択問題：企業分野】

事例相談者：女性(45歳)

相談者：B(男性：49歳)

事例3【選択問題：需給調整機関分野】

事例相談者：男性(48歳)

相談者：C(女性：33歳)

事例4【選択問題：教育機関分野】

事例相談者：男性(55歳)

相談者：D(男性：22歳)

この事例に登場する人物、団体は、本技能検定用に作成したもので、実在のものとは何ら関係ありません。

解答にあたって、**解答用紙の裏面をメモ書き用として使用することは可能です。**なお、裏面および枠外に記述されたものは採点対象にはなりません。

◇試験問題で使用される用語について

事例相談者とは、キャリアコンサルタントのことを指し、自分が実施したキャリアコンサルティング(事例)に関して、面談過程、事例の見立てや対応方針、環境への働きかけ等について相談をする人のことです。

相談者とは、自らの進路相談、職業相談、人事労務に関する相談など、キャリアに関する相談に来た人のことで、事例に登場する人を指します。クライアント、クライアントと同意語として使用しています。

事例 1 : 【必須問題（全員解答）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：女性 40 歳、相談歴 2 年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（必須問題）に記述すること。

相談者：A（男性：29 歳）、エグゼクティブ系人材紹介会社勤務。

家族：妻（30 歳） 小学校の教師。

【来談経緯】

Aさんは大学を出て何か人のためになる仕事がしたいと人材紹介会社に就職した。営業に配属され、入社当初は苦勞もしたが、次第に仕事が面白くなり、営業成績も上げていけるようになった。その実績と経験を買われて、今年の 1 月にグループ会社であるエグゼクティブ系人材紹介会社に転属となったが、これまでのような成績が上げられず悩んでいる。自分では経営についての知識がないことがその要因になっていると考え、専門的に学びたいと思うようになった。しかし、いまの会社には支援してくれる制度はない。それならば、いっそ会社を辞めて勉強をしようかとも考えている。どうしたら良いのか相談したい。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Aさんは、それまでの営業成績を買われて、エグゼクティブ系の紹介会社に移った。自分でも、会社からの期待に応えたい、経験や知識を生かして活躍したいと、新しい仕事に前向きに取り組んできた。しかし、実際にやってみると、なかなか思うように営業成績を残すことができない。営業スキルだけではなく、想像していた以上に経営についての専門的な知識や幅広い情報収集が求められていて、顧客のニーズを的確に捉えられていない現状に、それならば、あらためて経営の勉強をしたほうが良いのではと考えたが、今の職場環境では難しく、退職も考えているとのことであった。

「新卒で入社してから、ずっと人材紹介の営業をしています。初めは医療系の会社へ人材を紹介する部署でした。当初は、成績もなかなか振るわなかったのですが、1 年後に異動になり、そこでは介護士さんのニーズを聞きながら、相応しい施設などに紹介する営業が向いていたのか、営業成績も上げられるようになり、仕事が面白くなりました。自分としては、4 年間でそれなりの実績があげられたと思っています。今年の 1 月に今のエグゼクティブ紹介専門のグループ会社に異動になりました。この会社は、対象がエグゼクティブというだけあって、実力のある人たちが営業に集められていると聞いていましたので、自分の力が認めてもらえたんだと、とても嬉しかったです。でも、実際に営業に出て経営者の方たちにお会いし、企業の経営や求められる人材要件などについて話を伺っているうちに、これまでの自分の経験や知識なんかちっとも役に立たないし、経営について何も知らないことに気づいたんです…。」

（新しいお仕事では、これまでご経験のない経営についての知識が必要だと思われるのですよね？）

「はい。実は、このところ営業の成績が思うように上げられなくて、悩んでいます。自分が経営について知らないことが原因になっているのだと思っています。なので、まずは経

営の勉強をしなればと思いました。」

(まずは、知識を身につけたいということですね。)

「お客様と話をしても、付け焼刃では話題が続かないんです。そうすると訪問回数も減ってしまい、信頼をいただくのは正直難しいです。年齢も上で、経験も豊富な先輩たちは、堂々とお客様と渡り合っていますが、自分はとてもそんなふうにはできなくて、数字も上がりません…。だから、まずは知識を身につけないと、と思うんです。」

(そうですか。今は営業にも自信が持てなくて、おつらい状況なのですね。具体的にはどのように勉強をしようと考えていらっしゃるのですか。)

「やはり、海外でのMBAの取得が一番いいと思うのですが、どうでしょう？」

(そうですね。経営の勉強なら、MBAとおっしゃる方が多いですよ。簡単ではないと思いますが、学んだことを生かして活躍されている方もいらっしゃいますね。)

「はい。今なら会社を辞めて海外に行くのもありかな、と思っています。年齢的にもそうですし、まだ子どもはいないので、妻も説得できると思います。」

(会社を辞めることも考えていらっしゃるのですか。)

「会社の福利厚生で、そういった勉強をバックアップしてくれたらいいなと思って調べたのですが、活用できそうなものはありませんでした。それなら、いっそのこと会社を辞めて海外で勉強に集中してもいいかなと。」

(お子さんはまだということでしたが、奥様は働かれていますか。)

「はい。小学校の先生をしていますから、自分にしばらく収入がなくても問題ないです。」

(生活的にはまだ安心ということですね。ところで、MBAについては、日本国内でも夜間を中心に学んだり、通信制でできるものもありますが、ご存知ですか？)

「そうなんですか？でも、それで中途半端にならずに役に立つ知識が身につきますか。」

(もちろんです。多くの方が仕事をしながら勉強されていますよ。)

「どんな勉強ができるかとか、教えてもらえますか。」

(わかりました。次回までにご興味がありそうなコースについて調べておきましょう。)

「そうですか。では、よろしくお願ひします。」

【所感】

自己効力感が下がっているようだったので、勉強して知識を身につけることで自信を取り戻してもらうには、MBAの取得は有効と考え、具体的な情報提供を行った。会社を辞めなくても勉強ができる方法もプラスの情報であると思い、本人も納得してくれたと受け止めていたが、その後約束の日に来なかった。支援方法が間違っていたのか、指導を受けたい。

問1 この相談者Aについて、どのような問題があるか、あなたの考えをその根拠を含めて記述せよ。(15点)

問2 この事例相談者の相談者Aへの対応について、どのような問題があるか、あなたの考えを記述せよ。(15点)

問3 あなたが、この事例相談者の立場なら相談者Aに対してどのように対応するか、あなたの考えを記述せよ。(20点)

事例 2：【選択問題（企業分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：女性 45 歳、相談歴 2 年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（選択問題）に記述すること。解答用紙（選択問題）の選択した分野は「企業分野」を○で囲むこと（○がついていない場合、採点されません）。

相談者：B（男性：49 歳）、大学卒業後、大手銀行に入社。所属する情報システム部門は、数回の金融機関の統廃合を経て、現在は分社化されている。

家族：妻（48 歳）専業主婦、長男（19 歳）大学 1 年生、二男（16 歳）高校 1 年生。

【来談経緯】

B さんは分社化された情報システム会社の地方支社に勤務していたが、業務の集約化により単身で東京本社に赴任し、3 年が経過した。地元の支社はいずれ閉鎖の予定と聞き、戻れる見込みもなくなりショックが大きい。いっそ転職して家族の住む地元に戻るか、このままこの会社で働き続けるべきか、今後の方向性に迷い、会社が契約しているキャリアコンサルタントに相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

B さんは大学卒業時に大手銀行に入社し、専門分野である情報システム部門で開発を担当してきた。その後、金融機関の度重なる統廃合により分社化され、ファイナンスグループとして成長を続ける中、多忙な日々を過ごしてきたが、特に自分のキャリアに危機感を持ったことはなかった。しかし、単身赴任も 3 年目になり、親会社に対する企画システムの資料作成や説明業務に追われる日々の仕事に嫌気がさしている。家族との時間も、赴任当初は毎月地元に戻っていたが、最近は学校の長期休みに家族が上京してくる程度である。何のために働いているのかモチベーションも上がらない。

そんな中、社内研修があり、これからのキャリアプランを考える機会に遭遇した。定年もいずれやってくることはわかっているが、まだまだ先のような気がしていたが、いっそ今のうちに地元で転職した方が良いのではないかと考え始めた。

（仕事に遣り甲斐が感じられず、家族とも離れた生活で何も良いことが無い、と感じていらっしゃるのですね。）

「ええ、部長は親会社しか見ていないのでミスが出ることにとても神経質なんです。私も専任職とはいえ一応リーダーなのですが、メンバーには任せられず結局自分がやらなくてはならないことばかりです。若手の育成なんかとても余裕がありません。忙しいせいなのか、社風なのかわかりませんが、部内の交流も少なく、何ともわびしいです。」

（メンバーの育成も期待されていらっしゃる…。ところが目の前の業務が精一杯で、これ以上はもう無理というお気持ちなのですね。しかも孤独な環境で毎日がおつらいですね。）

「銀行に入ったつもりが統廃合が続き、こんな状況になるとは思っていませんでした。しかも家族とも離れ離れです。キャリアプランと言われても何をどう考えていけば良いものかわからなくなりました。」

(今までは変化に対応してきたけれど、これからのことを考えると何がベストな道か困惑してしまいますね。今の状況について奥様はなんとおっしゃっているのですか。)

「いずれ地元に戻ると思っているのですが、いまは食事や身体に気をつけてと言ってくれています。妻には、地元の支社がなくなることはまだ話していないのですよ。」

(それで、いっそ退職して地元で仕事を探そうかとまで考えてしまったのですね。)

「そうですね。今の会社に愛着がないわけではないです。社会に重要なインフラを提供してきたという自負を持ってやってきましたしね。転職なのか残るのか悩ましいところです。ただこれからのことを考えると今の会社でどこまで頑張れるか自信がないです。でもこの年齢で、しかも地元で仕事があるのかはわかりません。子どもは学生だし、まだまだ働き続けなくてははいけません。」

(経済的なことを考えると、今の仕事を辞めて転職するということはためられる…。)

「そうですね…(沈黙)。転職は給与が下がりますよね。ただここに居ても55歳から給与は下がります。65歳まで雇用は継続できますが、給与は下がる一方で、新しいことに対応していくことは求められるし、しかも単身赴任です。これから先のイメージが持てないんですよ。」

(会社では、新しいスキルの獲得など、キャリア開発の仕組みはあるのですか?)

「希望で受講できる専門研修は一応ありますが…。自分には開発現場が合っていると思っ
ていますが、最近では自社内でやらず、ほとんど協力会社が行います。それに、社内で他に何がやりたいかと聞かれても思いつかないです。」

(そうですか。ところで、地元での転職については、何かあてはあるのでしょうか?)

「うーん、今度の連休に大学時代の同窓会があるので久しぶりに帰る予定です。そこで聞いてみようかと思っ
ていますが。うーん、友人の紹介というのも、どうでしょうね…。」

(実際に動こうとすると、いろいろありますよね。どうでしょう、今の会社で続けていくことも、もう少し検討してみませんか。後輩の育成とか、これまでの経験を生かせる仕事がまだまだあるように思いますよ。一度、仕事の棚卸しをしてみてもどうでしょう。)

次回までにこれまでの仕事の棚卸しをすることを共有し、連休後の面談を約束して終了した。

【所感】

現在の仕事に忙殺され孤独な相談者の状況を理解し、信頼関係は築けたと思う。家族と一緒に暮らせる地元で働きたいという気持ちがとても強いようであったが、地元での転職はハードルが高いと思い、今の会社で頑張るという選択肢を提案したところ、本人も受け入れてくれたようだった。しかし、その後予約のキャンセルがあり、後に退職して地元に戻ったと聞いた。やはり、転職に関するアドバイスをもっとする必要があったのだろうか。

- 問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)
- 問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)
- 問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例 3 : 【選択問題(需給調整機関分野)】

次の文章は、事例相談者(キャリアコンサルタント:男性 48 歳、相談歴 1 年)が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙(選択問題)に記述すること。解答用紙(選択問題)の選択した分野は「需給調整機関分野」を○で囲むこと(○がついていない場合、採点されません)。

相談者: C (女性: 33 歳)、四年制大学文学部卒、派遣社員、独身。

家族: 父(60 歳)、母(59 歳)。

【来談経緯】

Cさんは、大学卒業後、正社員として6年間勤務したが退社。その後は、派遣社員として3社で5年間事務職をしてきたが、そろそろ正社員として安定して働きたいと思い、需給調整機関に相談に来た。

【面談経過】()内はキャリアコンサルタントの発言、「」内は相談者の発言

Cさんは、学生時代の就職活動では大手商社を希望したものの、一次面接段階で次に進むことができず、父親の紹介で機械製造の中堅メーカーに一般事務職として入社した。週休二日だったが、残業が毎日1~2時間あったことや、月に1度は職場の飲み会に出席しなければならないことなどもあり、6年目に退社。その後は、派遣社員として3社(5年間)で勤務してきた。父親がこの3月末に定年を迎えることもあり、そろそろ正社員として働き安定した仕事をしたいと思い、相談に来た。

(お父さんが定年を迎えられることもあって、安定した仕事をしたいとお考えになってご相談に来られたのですね。)

「はい。新卒の就活時は、大手商社で働きたかったのですが、上手くいきませんでした。なので、今回は、大企業に勤務したいと思っています。そして、この就活を『最後の就活』にしたいんです。事務職として大企業に採用されれば、定年まで勤めあげるつもりです。」

(学生時代の就活がうまく行かなかったのが、今回の転職でリベンジしたいとお考えなのですね。)

「はい。以前は、安易に父のコネに頼って中堅企業に入りましたが、今回は、正社員として大企業に入りたいと思っています。事務職であればそれなりに自信があります。」

(なるほど。大企業で正社員、仕事は事務職をご希望されていることはわかりました。ただ、大企業の事務職は求人案件が多くないように思いますよ。)

「そうですか。でも、昨今のニュースでは有効求人倍率がバブルの時を超えたと聞いています。」

(そうですね。確かに、そういう報道もありましたね。)

「大企業で働くときに、事務職に求められる資格とかスキルとか、特に何かありますか。」

(そうですね。エクセル・ワード・パワーポイント等のPCスキルは必須だと思いますが、それ以外に周囲の人への気遣いとか、協調性も大切だと思います。)

「PCは10年以上やってきていますのでそれなりにできると思いますが、職場の方とのお付き合いは、苦手というか、できれば避けたいですね。その代り、残業は月に10～20時間程度であれば、やっても良いです。いままでは残業はしたくないと思っていましたが、大企業で働くなら、そんなことは言っていられないと思いますし。」

(なるほど、PCスキルについては自信をお持ちだけれど、職場の方との付き合いは避けたいということですね。残業は月に10～20時間程度であれば大丈夫なんですね。)

「はい、そうです。ところで、お給料ですが、今は年収が300万円程度なんですけど、今回は大企業という事もありますので、350万円以上を希望したいと考えています。」

(そうですか。年収350万円以上をご希望なのですね。他に、何か気になることはありますか?)

「はい。新卒の時は父の縁故という事もあり、簡単に履歴書だけを提出して、それで良かったし、派遣は派遣会社の担当の方が今までやってきたことを順にヒアリングしてくれて、書類を作ってくれましたので、自分で職務経歴書などを作ったことがありません。なので、応募書類の作成を手伝って欲しいと思うのですが、お願いできますか?」

(はい。エントリーシート、履歴書、職務経歴書等、なんでもお手伝いしますよ。)

「よかった。そう言っていただけて心強いです。よろしく願います。この後はどうすれば良いですか?」

(それでは、私の方でCさんのご希望に合う具体的な案件を探しておきます。応募書類の書き方等についても雛形を用意するようにしますので、来週の同じ時間にお越しいただいても良いですか?)

「はい。わかりました。いろいろと聞かせていただき、気持ちが楽になりました。お願いばかりで申し訳ありませんが、ご相談して良かったです。それでは来週、よろしく願います。」

【所感】

Cさんの気持ちをきちんと受け止めて、希望する内容を確認した。そして、不安に思っていることにも対応できることを明確に伝えたことで、Cさんは安心してくれたようだ。実際、「心強いです。」と言ってくれたことで、自分としてはよいコンサルティングができたつもりであった。しかし、次回の面談を前にして、本当に良かったのか気になっているため、指導を受けたい。

- 問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)
- 問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)
- 問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例 4 : 【選択問題（教育機関分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性 55 歳、相談歴 2 年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（選択問題）に記述すること。解答用紙（選択問題）の選択した分野は「教育機関分野」を○で囲むこと（○がついていない場合、採点されません）。

相談者：D（男性：22 歳）、国立大学理学部 4 年生

家族：父（50 歳）地方公務員、母（48 歳）専業主婦。相談月 8 月初旬。

【来談経緯】

当初は地元の公務員を目指していたが、就職活動を進めていく中で、6 月上旬までに数社の中堅 IT ベンダーから内々定をもらった。その後も民間と公務員の就職活動を並行して継続していたが、最近になって最大手の IT ベンダーが不合格となり、就職留年をしようかどうか迷って、2 ヶ月ぶりに学内のキャリアセンターに来室。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

D さんは、3 年生の秋頃に一度来室。当初は、両親の勧めもあり地元の公務員を目指していたが、その後 4 年生の 6 月上旬に来室した際は、IT ベンダー数社から内々定をとり、そのうち大手の 1 社を残して、地元の公務員試験も並行して受けているとのことだった。

今回、2 ヶ月ぶりに 8 月初旬に来室した。

「就活を進めていく中で、安定した地方公務員も魅力的だけど、若いうちは都会でシステムエンジニアとして活躍したいという思いが強くなってきました。ただ、どうしても行きたかった最大手の IT ベンダーが不合格となってしまう、いまは就職留年も考え始めています。」

（現在内々定している企業もとても良い会社だと思うけど…。）

「せっかく都会で働くなら、業界最大手の企業で働きたいと思います。いま内々定している企業では働くモチベーションが下がってしまう気がするんです…。就活で知り合った他大学の学生が、『昨年就職留年して、今年は昨年以上の成果を出せて満足だった』と話しているのを聞いて、自分も留年して再挑戦しようかどうか迷っています。」

（内々定している企業があるのだから、すぐ結論を出さず時間をかけてゆっくり検討してはどうですか？）

「留年するなら、後期は企業研究やインターンシップなどに集中したいので、今月末までに決めなければと思うと、あまり時間がないと感じています。」

（集中したい気持ちはわかるけれど、他にも選択肢がないか、もう少し考えてみてはどうかな？）

「実は、来週、地方公務員（市役所）の最終面接があります。このまま進んだら、父は公務員になって地元に戻ることを強く勧めるだろうと考えたら、ますます気持ちが落ち込んでしまいます…。」

（昨年の秋に来室したときは、公務員志望で、地元志向が強かった記憶があるけど…。）

「就活を進めていく中で、若いうちは都会で最先端の仕事をやってみたいと思うようになりました。確かに性格的には地元でのんびり暮らすほうが向いていると思うけれど、ITの知識も全くない訳ではないので、チャレンジしたいと思っています。いずれは地元のほうが良いと考えていますが、若いうちからずっと地元で公務員…、は嫌だと思うようになりました。」

(就職留年した場合のメリットとデメリットを比較してみましようか?)

「今年の3月頃は、民間の就活はただなんとなく進めていて、公務員試験の練習程度にしただけ考えていませんでした。だから、ES(エントリーシート)で落とされたり、面接に進んでも、企業研究ができていなくて通過できないことばかりでした。でも、いろんな就活生に出会い、民間就職も真剣に考えるようになりました。いまは、どうしても最大手のITベンダーで働きたいという気持ちでいっぱいです。就職留年して、いまからちゃんと企業研究をし、インターンシップにも参加していけば、十分結果を出せる自信はあります。」

(私はIT業界に長く在籍していたのだけど、1年留年をするくらいなら、まずは内々定のとれている企業に入社して技術を身につけて、将来あらためていま希望しているような会社に転職して、ステップアップするといった方法もあると思うよ。)

「そんなに簡単に転職とか、ステップアップとかできるものでしょうか?それに将来はやっぱり地元で暮らしたいと考えています。民間から公務員に転職する際も、より大手の企業に在籍していたほうが有利だと思っています。」

この後、IT業界の仕組みと、内々定の出ている企業や本人が希望している業界最大手の企業について、各ベンダーが果たしている役割、得意とする事業分野、顧客や必要とされる技術レベルなど、多くの情報を詳細に提供した。

【所感】

自分が長く所属していたIT業界について、人事での経験をもとに詳細な情報提供もできたし、本人も真剣に話を聞き、疑問に思う点は積極的に質問もしてくれた。しかし、それ以来来室もなく気になっている。いま振り返ると、全体的に指示的、誘導的な発言が多かったかと思い、指導を受けたい。

- 問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)
- 問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)
- 問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

